

新空手ルール対比表

2011年5月3日改正・実施

	K-2		K-3		K-4	
	グランプリ	ワンマッチ	グランプリ	ワンマッチ	グランプリ	ワンマッチ
試合時間	3分 延長戦2分	2分	1分30秒 決勝戦2分	1分30秒	1分30秒	1分30秒
出場資格	予選通過選手 連盟推薦選手	一般部	中学生部 高校生部 女子部 一般部	中学生部 高校生部 女子部 一般部	中学生部 小学生部	中学生部 小学生部
蹴り技の 規定	試合時間内に腰より高い蹴りを 8本以上出さなかったとき a. 6～7本の時、減点1点 b. 2～5本以下の時、減点2点 c. 1本以下の時、失格		試合時間内に腰より高い蹴りを 6本以上出さなかったとき a. 4～5本の時、減点1点 b. 2～3本以下の時、減点2点 c. 1本以下の時、失格		試合時間内に腰より高い蹴りを 8本以上出さなかったとき a. 6～7本の時、減点1点 b. 2～5本以下の時、減点2点 c. 1本以下の時、失格	
延長戦	2回有り 延長戦2分 延長戦は2回 までとする。 2回目はマス トシステムで 採点する。	無し	1回有り 延長戦1分30秒 延長戦で決ま らない時は体 重の軽い選手 の勝ちとする。 決勝戦も1回 有り。	無し	1回有り 延長戦1分 延長戦で決ま らない時は体 重の軽い選手 の勝ちとする。 決勝戦も1回 まで。	無し
防具	グローブ マウスピース 金カップ スネパット (自由選択)	グローブ マウスピース 金カップ スネパット	K-3面 グローブ マウスピース 金カップ スネパット 胴(中学生部のみ)	K-3面・胴 グローブ マウスピース 金カップ スネパット	K-4面 グローブ <small>男女混合の女子は胴可(自由選択)</small> 金カップ スネパット 胴(女子部のみ)	K-4面・胴 グローブ 金カップ スネパット
勝敗	<p><試合の勝者は一本勝ち、技有り二本による併せ一本勝ち、判定勝ち、TKO勝ちにより決定される。></p> <p>a. 一本勝ち(KO)..... 突き・蹴りによる攻撃で3秒以上のダウン、又は二度の技有り。</p> <p>b. 技有り(1.5点)..... 突き・蹴りによる攻撃で一時的にダウンし、3秒以内に立ち上がったとき。倒れはしないが有効かつ的確な加撃が認められ相応のダメージを与えたとき。技有りは二本で一本勝ち。</p> <p>c. 判定勝ち..... 一本勝ちによる勝敗が決まらず審判の採点によって勝敗を決定するとき。(優勢点は0.5～1点以内)</p> <p>d. 引き分け..... 判定で主審・副審の2票以上の判定がないときは、引き分けとする。両者が同時に倒れ、双方とも3秒以内に立ち上がらないときも、引き分けとする。</p> <p>e. 減点..... 反則を行ったとき、注意をあたえ、注意1回で減点1点・注意3回で失格とする。悪質な反則のときは、注意1回でも失格となる場合もある。</p> <p>f. 失格..... 試合中に帯や胴衣が解けたときは、装備不備とし、減点(2点)をとります。(試合進行の妨げの為)</p> <p>①偶発的な金的攻撃でダウンし、30秒以内に立ち上がれないとき。</p> <p>②蹴り本数が1本以下のとき。</p> <p>③呼び出しても試合場に現れないとき。(1分以内)</p> <p>g. TKO勝ち..... 選手が負傷、又は失格、棄権により試合を続けることが出来ないときは、次の各項によって勝敗を決定する。</p> <p>①負傷の原因が相手の反則によるときは、負傷者の勝ちとする。(反則者の失格)</p> <p>②負傷の原因が負傷者自身の不注意によるときは、相手選手の勝ちとする。(負傷者の失格)</p> <p>③負傷の原因が双方の偶発によるときは、試合を続行できる選手の勝ちとする。</p> <p>④選手の方が著しく優勢のときは、主審の判断により試合終了を待たずに勝ちとする。</p> <p>⑤選手が負傷し、試合続行不可能と主審又は大会医師が判断したときは、試合を続行できる選手の勝ちとする。</p> <p>⑥相手選手にダメージがあり棄権したとき、又は戦意を失わせたとき。</p> <p>⑦相手選手のセコンドよりタオル投入があったとき。</p> <p>h. TKO勝ち..... 選手が負傷し(鼻血等の出血)、二度ドクターの診断を受けたとき。</p> <p>i. 禁止行為..... グローブをひもやテーピング等で固定することを禁ずる。</p>					
敗者復活	トーナメント準決勝で勝者となった選手が試合続行不可能なときは、敗者復活として負けた選手が決勝戦に出場する権利を得る。					
有効技	突き＝正拳(ストレート)、鉤突き(フック)、上げ突き(アッパー)、手刀、裏拳、鉄槌 蹴り＝前蹴り、廻し蹴り、横蹴り、後ろ蹴り、後ろ廻し蹴り、内股への蹴り、飛び蹴り、片手でつかんでのヒザ蹴り(K-4は除く)、顔面へのヒザ蹴り、胴廻し回転蹴り、かかと落とし					
反則技	K-2	頭突き、ヒジ打ち、バックハンド、両手でつかんでのヒザ蹴り、故意による金的攻撃、投げ技、関節技、目突き、噛みつき、倒れた相手への攻撃、背後からの攻撃、故意に場外へ逃げること、試合着をつかんでの攻撃、手足をつかむこと、やめの合図後の攻撃、場外での攻撃、主審又は、相手選手に対して侮辱的あるいは攻撃的言動。攻撃的な片手でつかんでのヒザ蹴り。攻防の流れを止めるクリンチ。打ち合いをさける行為と判断した場合				
	K-3					
	K-4	上記の反則技(K-2・K-3)、片手でつかんでのヒザ蹴り、頭をつけての攻撃、両手での押し、故意に倒れてのかけ逃げ。*手技とヒザ蹴りによる首から上の顔面攻撃(K-4のみ)				

※上記にない項目は、全日本新空手道連盟試合規約 K-2・K-3・K-4に準ずる